

北陸発！ 明日への挑戦



中小企業基盤整備機構（中小機構）では、地域を元気にする各種支援事業を展開している。今後は毎月第4火曜日「各事業の内容や事例」を取り上げる「ひらびら」。

「モルトの麦茶？なにり組みが始まった。

それ？ウィスキーなら 温泉地として名高い同知ってるけど…。」昨年 地域で、ビール麦を生産8月末、農業生産者と中 する黒部市ビール麦生産小企業者による面白い計 組合と連携して進めてい画があるとの情報を得るのが、日本有数の清流・て、富山県黒部市を訪ね 黒部川の名水と、地元産

地域を挙げて応援

たときのこと。「だから、の麦を100%用いた麦茶にモルトを入れるん「モルト（麦芽 麦茶）ですよ。」と繰り返して説である。

モルトを用いた麦茶

皆さん。「ま、たまされは、現在の観光資源であたと思って試しに飲んでみいください。」「…ん！る名水と温泉だけではなこりゃ…市販の麦茶とく、もっと地域の産物をはまるで違うねー」とい有機的に結びつけた新しいやりとりを経て、農商いブランドを作り出せな工連携の認定に向けた取いだろつか。そのような

●次回掲載 9月22日（祝火）予定

思いを抱く黒部市や地域 ることこぎつけた。モ聞きながら改良しつつ、の人たちは、様々なアイ ルトが生みだす豊かな香去る6月4日にはプレスデアを練ってきた。その りと深い味わい、甘みが発表と同時に発売を開始中で、昨年度豊作だった 市販の類似品とは明らかした。黒部市はもとよりビール麦とビール製造技 に異なる製品の誕生であ地元のまちづくり協議術とを組み合わせた新製 する。 会、黒部農業協同組合等の品の開発に取り組むこと 中小機構北陸支部で事の熱い応援を背景に、計となり、試行錯誤の結果、 業計画策定などについて画を上回る好調な滑り出モルトを用いた麦茶を作 支援を行った結果、昨年しよなっている。



12月に国の認定を得る ことができた。その後、 補助金制度も活用して味 やボトルデザイン等につ いても多くの方の意見を

農商工の連携

農商工連携事業とは、 農林漁業者と中小企業者 が共同で行う新たな商品 やサービスの開発等の計 画について、国が認定を 行い、計画に基づく事業 に対して、補助金、政府 系金融機関による低利融 資等の支援を行うもの。

モルト茶



黒部市のビール麦農場と「黒部名水モルト麦茶」

問い合わせは、中小機構 北陸支部（076-222-3100）まで。
（中小機構北陸支部プロジェクト マネージャー・布目大剛）

広告